

HyARC Seminar (HyARC Seminar#178)

Date: February 23 (Monday) 13:30-15:30

Room: The meeting room (#617) of Research Institutes Building.

講演者 1 : 安田公昭(名古屋大学地球水循環研究センター)

講演題目 : 洋上風力発電の事業化にむけた事例研究

わが国における洋上風力発電は、緒に就いた段階であり、多くの領域で未整備である。法律の分野では、港湾区域には港湾法が整備され、洋上風力の設置についてもガイドラインが示されている。しかし、一般海域では洋上風力を進めるための根拠法（規制法あるいは管理法）が整備されていないため、事業者にとって国有地である一般海域で当該事業を進めるに当たって、その事業に反対する勢力からの訴訟に対抗できない。また合意形成に関わる領域では、漁業権に関わる課題以外にも大きな壁がある。わが国の海岸線は、砂浜海岸でも 1 km離岸すれば水深が 10m になるなど海岸の傾斜は急深である。従って、着底式洋上風車の設置は、沿岸住民のすぐ目の前に風車が林立するような事態になり、景観に大きな影響を与え、合意形成の大きな障害となる。このような種々の課題があるなかで、新潟県村上市の岩船沖洋上風力は、事業者を決定して事業が動き出す段階にきた。当セミナーにおいて、この岩船沖洋上風力の事例研究を報告する。

講演者 2 : 本巣芽美(名古屋大学地球水循環研究センター)

講演題目 : 地域的受容からみる洋上風力発電事業のあり方

風力発電の社会的受容は、社会政策的受容・市場的受容・地域的受容の 3 つの受容性から構成されると言われている。たとえ国レベルで風力発電事業に関する政策が講じられ、また、市場的な合理性が成立しても、地域からの反発により事業が遅延、停滞、頓挫する例はある。したがって、地域から受け入れられることが風力発電を普及促進する上で重要な要素のひとつとして位置づけられている。本発表では、地域的受容の立場から、寄附研究部門の 2 年間の事例研究における漁業協同組合や自治体へのヒアリング調査を中心に、地域に受け入れられる洋上風力発電事業のあり方、および、それを導くための合意形成プロセスについて報告する。

講演者 3 : 森西洋平(名古屋工業大学)

講演題目 : JST/CREST 研究「洋上風力発電に必要な洋上風況把握・予測手法の開発」
の紹介

平成 24 年度より JST/CREST の研究課題として、上田（名大・研究代表者）グループおよび森

西（名工大・主たる共同研究者）グループのチームにより，“洋上風力発電に必要な洋上風況把握・予測手法の開発”，を実施してきた。現実の洋上風況を把握するため、上田グループにより雲解像気象モデルである CReSS による日本周辺の風況予測が実施され、また能登半島沖の舳倉島に風況観測塔を設置し超音波風速計測を用いた観測も実施された。さらに CReSS による風況予測結果を用い、洋上風車による風力発電出力予測が森西グループにより実施された。ここでは、これまで約 2 年半の研究成果トピックとして、CReSS による日本域水平解像度 2km 更に津軽沖 200m の予測結果、舳倉島の風況観測結果と予測検証結果、および風力発電出力の予測例（日本域 2km の台風到来と寒気団到来）の例を紹介する。

(given in Japanese)